

貝がら節踊りとその歴史を後世に伝えたい

せいちょうかい
正調会



代表
池長 綾子 さん
Ayako Ikenaga

会員
長谷川 益美 さん
Masumi Hasegawa



10月13日、32万石お城まつりで3つの踊りを披露

運命的な出会い

鳥取市内でも有数の温泉地「浜村温泉」を有する気高町。戦後、この温泉街をPRするために踊られていたのが「正調員がら節踊り」です。

正調会は、この正調踊りを保存・伝承するために、平成19年10月に結成されたグループ。毎月2回の練習を積み重ね、今年で丸5年が経過しました。メンバーは現在女性13人。市内の青い鳥コンサートや貝がら節まつりなど、市内のイベントに出演し、訪れる

人に踊りを披露しています。

代表の池長さんは、小学校6年生のとき、鳥取県庁の家庭で踊りを披露するために初めて貝がら節踊りを習いました。成人後、仕事や子育てに力を入れたため、踊りからは離れていましたが、「雀百まで踊り忘れず」といわれるように、身に付けた舞を忘れることはありませんでした。

ある時、街で見る踊りが自分のものと違うことに気づき、「あの踊りはどこへ行ったのだろう」という思いを抱きました。そして、新聞の投

稿で「温泉旅館で見た当時の踊りがなくなってしまったのか」という記事を見て、「これは何とかしてあげたい」という思いが募りました。

長谷川さんは、昭和29年、鳥取県観光連盟の「観光キャラバン」の一員として、県外で貝がら節踊りを実演し、浜村温泉をPRした経験を持ちます。また、旅館ではお座敷での余興として、お客さんに踊りを披露するという日々を送っていました。結婚を機に気高町を離れることになり、年に数回は実家に帰っていま

したが、祭りで見ると自分の踊りと違っていることに悶々としていました。

二人の出会いは5年前。池長さんは、祭りのポスターに写る昔の長谷川さんの姿を見て、「この人に聞けば、昔の踊りが見つかると直感。長谷川さんに踊りを見せてもらうよう依頼しました。長谷川さんが舞うと、ついに池長さんの頭の中の映像が目についたのよ」と、笑顔が溢れる二人。こうして、正調会が誕生しました。

《11月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷木のまつり
- ▷文化賞贈呈式
- ▷鳥取市マンガフォーラム
- ▷公民館まつり



昨年の「公民館まつり」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

特別番組

鳥取市議会『鳥取市庁舎耐震改修等に関する調査特別委員会』

開催日の午後7時から、また週末土曜日の午後2時から中継録画放送します。*鳥取市公式ホームページ内のインターネット放送局でも視聴できます。(開催後、約1カ月間)

いなばびよんびよんネット

.....自主制作番組.....

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

市内の農産物を集めて開催される「自然のめぐみ感謝祭」や、各地の収穫に感謝する行事の模様をお伝えします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

市内各地区の公民館まつりや、地域のお年寄り子どもたちのふれあい行事を紹介します。

生活情報番組『びよんびよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介します。

*番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください!

いなばびよんびよんネット ☎ 0857-22-6111

*放送予定は予告なく変更することがあります。
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。
<http://www.inabapyonpyon.net>



ステージでの披露を意識しての練習

「他のことを考えているとつい間違えてしまいます」と長谷川さん。しかし、練習では全体を見渡し、気付いたことを

踊りがつなぐ人と人

正調会の踊りは、小気味よさとかわいらしさのバランスが大切です。そのため、「止める」動作を大切にしながらも、表情豊かに「魅せる」ことも意識する必要があります。

仲間にはアドバイスをしています。まさに、正調会のお姉さん。メンバーからの信頼は、とても厚いものです。正調会の練習はとても和気あいあいとした雰囲気。休憩中や練習後は世間話にも花が咲きます。現在は、正調踊りに加え、貝がら節祭りや、浜村小唄という民謡に合わせた踊りも舞うことができます。この踊りが見たかった、というお客さんの言葉が

貝がら節踊りを後世に

貝がら節踊りは、長い年月の中で変化してきました。新曲貝がら節踊りの場合「祭りを見るものから参加するものへ」という時代の流れの中、

「踊り通していろんな人と仲良くできて本当によかった」と長谷川さん。仲間やふるさととのつながりを感じ、元気に踊れることのありがたさを強く噛み締めています。

「その時々で貝がら節踊りを守ろうとした人たちが積み上げてきた歴史を、正しく記したい」と池長さん。正調会の活動は、貝がら節踊りという地域の財産を後世につなぐ大きな力となっています。